

# 登山月報



ネパール・ピーク(左奥)



2020年東京五輪代表選考に関するご報告(CASへの提訴の経緯) …	2
天皇陛下御即位記念 第74回国民体育大会いきいき茨城ゆめ国体2019 …	3
スポーツクライミング競技会 報告	
第132回 Mountain World ……………	5
<b>新連載</b> 『日山協と私』 ……………	6
令和元年度安全登山指導者研修会(東部地区) 報告 ……………	8
令和元(2019)年度夏山リーダー養成講習会 ……………	9
I S M F 総会報告書 ……………	10
『そうよ そうなの 遭難よ!』 ……………	11
JMSCA、寄贈図書、表紙のことば、編集後記 ……………	12

# 2020年東京五輪代表選考に関するご報告(CASへの提訴の経緯)

公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)

会長 八木原 罔明

JMSCAは、第32回オリンピック競技大会(以下「2020年東京五輪」)の日本代表選手の選考につきましては、2019年5月21日に「第32回オリンピック競技大会(2020/東京)におけるJOC推薦選手の選考について」(以下「JMSCA基準」)を公表させていただきました。JMSCA基準は、2018年10月に国際スポーツクライミング連盟(International Federation of Sport Climbing 以下「IFSC」)が国際オリンピック委員会(International Olympic Committee 以下「IOC」)の承認を得て公表した「Qualification System - Games of THE XXXII Olympiad - TOKYO 2020」(2019年2月に一部改定 以下「IF基準」)に基づき、なおかつIF基準の解釈について疑義がある点はIFSCに何度も確認をしてその解釈を確定(以下「従来解釈」)させた上で、JMSCAが作成したものです。

ところが、IFSCが、2019年10月に何ら正式な説明をしないまま、従前の態度を覆し、IF基準の解釈に大きな変更を行いました(以下「新解釈」)。この新解釈によれば、従来解釈により作成されたJMSCA基準に則り代表選考をすることができなくなってしまいます。すなわち、新解釈によれば選考大会割当出場枠(JMSCA基準1参照)は2名以内とされるため、世界選手権八王子大会で7位以内に入り日本人最高位となった優先選考選手(野口啓代選手、榑崎智亜選手 JMSCA基準3【2】(1)(a))及び同大会で7位以内の日本人第2位となった選考大会割当出場枠を有する選手(野中生萌選手、原田海選手)以外に、選考大会割当出場枠を有する選手が出てきた場合の選手選考(優先選考選手以外の選考大会割当出場枠を有する選手が複数の場合の選考 JMSCA基準3【2】(1)(b))の実施が難しくなります。このことは、仮にオリンピック予選大会(Olympic Qualifying Event 2019 開催日:2019年11月28日~12月1日、開催場所:フランス・トゥールーズ)で6位以内に入った選手やアジア選手権大会(開催日・開催場所未定)で優勝した選手(正確には枠を持たない選手の中での最高位の選手)は、選考大会割当出場枠を得られず、2020年東京五輪の出場の機会を奪われる可能性が高いということを意味します。

JMSCAは、このような事態を避けるべく、IFSCと協議を重ねてまいりましたが、残念ながら本日まで受け容れ得る十分な回答は得られませんでした。残された手段は、スポーツ仲裁裁判所(Court of Arbitration for Sport 以下「CAS」)に提訴し、IFSCの新解釈を取り消してもらうことしかありません。ここでCASとは、1984年にIOCが設立した、スイス・ローザンヌに本部をもつ、国際的なスポーツ紛争解決機関です。

JMSCAとしては、残された手段であるCASへの提訴をするとしても、オリンピック予選大会が終了する2019年12月1日までにその判断を仰がなければならず、時間が切迫しているため、苦渋の決断として、本日、CASに提訴します。なお、IFSCは新解釈において、開催国割当出場枠についても従来解釈と異なる解釈をしているため、この点についてもCASにて争います。

このような事態になってしまいましたことについて極めて遺憾であります。2020年東京五輪出場を目指す全ての選手の出場の機会が断たれることがないように、最大限の努力をする所存です。

2019年11月1日

# 天皇陛下御即位記念 第74回国民体育大会いきいき茨城ゆめ国体2019

## スポーツクライミング競技会 報告

この度の台風、集中豪雨で被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

45年ぶりに開催されました国民体育大会は、東に太平洋を臨むゴールドコーストと称される美しい鹿島灘と、温暖な気候の台地に発展する茨城県鉾田市において、高円宮承子女王殿下のご臨席を仰ぎ、令和の幕開けに相応しいスポーツクライミング競技が、10月4日(金)～10月6日(日)の3日間の競技日程で開催された。



この度の国体は、昨年の福井国体での経験を踏まえた競技ルールの改定が多く行われた。

リード競技においては、①左右ルート「近似」②予選での「フラッシング」③競技成績の相乗計算④競技ルートの左右枝番抽選があった。ボルダリング競技では、競技時間が「5分」となった。

監督会議において、残念ながら実施要領や事前の通知等にもかかわらず規定改正への質問が出されるなど的一幕もあった。

また8月の「IFSC世界選手大会」(八王子市)で来年の東京五輪代表選手内定となった、野口啓代や、同大会リード3位の森秋彩の地元開催とあって、大いに会場は盛り上がり、3日間の観客動員数は、15,000人、マスコミ取材も、延110社を超えた。ボルダリング競技では、国体初の会場への入場規制を行った。

9月28日には、笠松運動公園で天皇、皇后両陛下をお迎えして行われた総合開会式で、35競技47都道府県選手団4,240人、観客10,546人、演技出演者11,372人の合計26,158人を前に、選手宣誓を成年女子・野口啓代選手がハンドボール少年男子とともに、「郷土の応援と期待を背負い、最後まで全力を尽くし戦い、夢と感動を届けることを誓います」と力強く宣誓をした。

その茨城県は、今年も天皇杯を埼玉県と最後の種目まで競う形で、皇后杯得点が大きく寄与する結果となった。



少年男子は中学生

が9名出場した。リード(右ルート)では西田秀聖(奈良県)、そして村下善乙(千葉県)、百合草碧皇(埼玉県)

少年男子リード競技決勝						少年男子ボルダリング競技決勝					
順位	県	ルート	氏名	高度	個人順位	順位	県	氏名	T	Z	個人順位
1	岐阜	左右	森本 治誉	34+	1	1	栃木	川又 玲瑛	3	4	1
			★田中 裕也	32+	4			★関口 準太	2	3	6
2	滋賀	左右	前田健太郎	34+	1	2	埼玉	百合草碧皇	2	4	5
			伊勢 一真	32+	4			鶴 隼斗	2	4	4
3	奈良	左右	★吉田 智音	33+	3	3	岐阜	森本 治誉	3	4	2
			西田 秀聖	TOP	1			★田中 裕也	1	3	9
4	千葉	左右	大里 拓己	29+	5	4	北海道	坂本 大河	2	4	3
			村下 善乙	TOP	1			竹内 悠真	1	2	12
5	埼玉	左右	左 鶴 隼斗	28+	7	5	奈良	西田 秀聖	1	3	7
			右 百合草碧皇	TOP	1			★吉田 智音	1	3	10
6	愛媛	左右	大政 涼	33+	3	6	愛知	野中 凜	0	3	14
			高村 佳吾	18+	8			佐野 大輝	1	2	11
7	茨城	左右	★田中 慧樹	29+	5	7	千葉	大里 拓己	1	2	13
			石田 諒	28+	6			村下 善乙	0	3	15
8	岩手	左右	★大賀 羽玖	26+	8	8	愛媛	大政 涼	1	3	8
			本明 優哉	21+	7			高村 佳吾	0	1	16

少年女子リード競技決勝						少年女子ボルダリング競技決勝					
順位	県	ルート	氏名	高度	個人順位	順位	県	氏名	T	Z	個人順位
1	東京	左右	菊池 咲希	35+	2	1	東京	平野 夏海	3	3	4
			平野 夏海	39+	1			菊池 咲希	3	4	3
2	茨城	左右	菊池 野音	27+	6	2	茨城	★森 秋彩	4	4	1
			森 秋彩	TOP	1			菊池 野音	1	1	15
3	大阪	左右	中川 瑠	32+	2	3	福島	滝口 萌	3	4	2
			井内 瑠南	27+	5			林 あいり	1	2	11
4	福島	左右	滝口 萌	30	3	4	大阪	中川 瑠	2	3	5
			林 あいり	28+	4			井内 瑠南	1	1	14
5	愛知	左右	★松浦くるみ	20	8	5	埼玉	菅我 綾乃	1	1	12
			★高尾 知那	35+	3			★野部 七海	2	3	6
6	埼玉	左右	★野部 七海	29+	4	6	愛知	★高尾 知那	1	2	9
			菅我 綾乃	25	6			★松浦くるみ	2	2	7
7	佐賀	左右	樋口 結花	29	5	7	福井	野村 遥	1	2	10
			渡島 夏希	19+	7			★齊藤 小夏	1	1	13
8	神奈川	左右	菅原 亜弥	25	7	8	長野	中嶋 諒	1	3	8
			阿部 桃子	19+	7			川嶋 ずず菜	0	1	16

成年男子リード競技決勝						成年男子ボルダリング競技決勝					
順位	県	ルート	氏名	高度	個人順位	順位	県	氏名	T	Z	個人順位
1	佐賀	左右	樋口 純裕	37+	1	1	岐阜	亀山 凌平	3	4	6
			鶴本 直生	29+	5			日比野良祐	4	4	3
2	埼玉	左右	本間 大晴	36+	2	2	北海道	杉本 怜	4	4	4
			波田 悠貴	33.5+	3			武者 知希	3	4	9
3	福井	左右	井上 祐二	34+	3	3	三重	渡部 桂太	3	4	7
			中上 太斗	34+	2			田嶋 瑞貴	3	3	10
4	新潟	左右	久貝 悠太	22	8	4	鹿児島	土肥 圭太	4	4	2
			田中 修太	35+	1			川畑イサム	1	3	13
5	北海道	左右	武者 知希	32+	4	5	神奈川	天笠 颯太	2	4	11
			杉本 怜	29+	5			小西 桂	2	4	12
6	鹿児島	左右	川畑イサム	22+	6	6	岩手	山内 響	3	4	8
			土肥 圭太	33+	4			中島 大智	1	3	14
7	茨城	左右	沼尻 拓磨	32	5	7	千葉	★村井 隆一	4	4	1
			野村真一郎	25	8			島谷 湊亮	0	1	16
8	東京	左右	古畑 和音	22+	6	8	熊本	石松 大晟	3	4	5
			大高 伽弥	26	7			渡邊 浩幸	0	2	15

成年女子リード競技決勝						成年女子ボルダリング競技決勝					
順位	県	ルート	氏名	高度	個人順位	順位	県	氏名	T	Z	個人順位
1	大阪	左右	森脇ほの佳	33+	3	1	愛知	倉 奈々子	3	4	1
			黒岡 水夢	29+	2			石井 未来	1	3	6
2	茨城	左右	★野口 啓代	TOP	1	2	茨城	小林 由佳	2	3	3
			小林 由佳	12+	7			野口啓代	2	3	2
3	愛知	左右	石井 未来	24+	7	3	長崎	大河内岸香	1	2	7
			倉 奈々子	30+	1			木下 茜	1	2	9
4	山口	左右	大田 理娚	31+	4	4	東京	中村 真緒	2	3	4
			小田 桃花	26+	3			川端 彰子	0	1	15
5	福井	左右	廣重 幸紀	34	2	5	山口	大田 理娚	0	2	13
			北市 麻希	10	8			小田 桃花	1	2	8
6	埼玉	左右	加島 智子	31+	4	6	福岡	新嵩 萌香	1	3	5
			坂井 絢音	25+	4			柴戸 珠希	0	0	16
7	広島	左右	錦織 美里	26+	6	7	山梨	戸田 萌希	0	3	10
			山下 真由	21	5			安田あとり	0	1	14
8	山梨	左右	安田あとり	20	8	8	大阪	森脇ほの佳	0	2	11
			戸田 萌希	17	6			黒岡 水夢	0	2	12



が完登を果たしたが、チーム順位は3、4、5位に終わった。これは、左右

ルートごと競技順位計算となる結果。1位は岐阜県(森本治誉、田中裕也)が勝ち取った。ボルダリング競技は、栃木県(川又玲瑛、関口準太)が予選決勝ともに1位。決勝で挽回を期した埼玉県(百合草碧皇、鶴 隼斗)、岐阜県(森本治誉、田中裕也)は今一歩及ばず、2、3位に。岐阜県が42点、奈良県30点、埼玉県33点。

少年女子は、出場選手中ただ一人、森秋彩選手(茨城県)がリード完登、ボルダリング競技で一撃4完をし、昨年の雪辱を果たした。チームとしては、僅差でかわされ東京都(菊池咲希、平野夏海)が2種目1位・48点、茨城県(森秋彩、菊池野音)が同2位・42点。福島県(滝口萌、林あいり)、大阪府(中川瑠、井内瑠南)が33点で並んだ。なお、中学生の活躍は目覚ましく12名が出場し3チームが中学生チームであった。その中でも中学生チームの愛知県(高尾知那、松浦くるみ)は、リード5位、ボルダリング6位と好成績21点を残した。

なお、リード予選におけるテクニカルインシデント発生に、お詫び申し上げます。幸いにも選手、関係者には競技への支障はなく、ルートセッターによる再確認後、再開することができました。

成年男子は、リードで(左)終了点タッチでの1位の樋口純裕と(右)5位の轟本直生(佐賀県)が1位。2位には、埼玉県(本間大晴、波田悠貴)。(右)1位の田中修太、(左)8位の久貝悠太(新潟県)は及ばなかった。ボルダリングでは、村井隆一(千葉県)が唯一の一撃4完を達成。ルートセッターを驚かせた。4完には、日比野良祐(岐阜県)、杉本玲(北海道)、土肥圭太(鹿児島県)が続いた。チーム1位は、岐阜県(亀山凌平、日比野良)。その結果、北海道が33点、岐阜県、鹿児島県が24点を獲得。

成年女子は、リード1位は、大阪府(森脇ほの佳、黒岡水夢)。龍ヶ崎市から駆け付けた母校の八原小の応援団の声援を背に、野口啓代が(左)を出場者で唯一完登。小林由佳(茨城県)が序盤でスリップ12+であったが、種目2位に。チームポイント同点の、愛知県(石井未来、倉奈々子)はカウ



ントバックで3位。ボルダリングは、唯一3完登を果たした、倉奈々子(愛知県)が1位に。野口啓代、小林由佳チームが2完登で2位。続いて、昨年1位の長崎県(大河内芹香、木下茜)が3位となった。



この成年女子リード競技が天皇杯、皇后杯を決める勝負競技となり、その競技成績、茨城県21点、埼玉県9点、愛知県18点が大きく貢献した格好となった。

天皇杯の競技得点は茨城県96点(昨年同様)、埼玉県84点、愛知県72点。皇后杯は、茨城県84点、東京都63点、愛知県63点を獲得するなど、最後まで目が離せない熱い戦いが繰り広げられた。

天皇杯順位		皇后杯順位	
順位	都道府県	順位	都道府県
1	茨城県	1	茨城県
2	埼玉県	2	東京都
3	愛知県	3	愛知県
4	東京都	4	大阪府
5	岐阜県	5	福島県
6	大阪府	6	埼玉県
7	北海道	7	山口県
8	福井県	8	福井県
			長崎県

なお大会での抗議は、リード競技5件、事前の質問が1件あった。いずれも適切に対応した。

野口啓代選手は、8月の世界選手権直後、国体に対してこのように語っていた。

『今まで、茨城県の皆さまには大変応援していただき、非常に感謝している。そのためにも、地元で開催される茨城国体ではその感謝の気持ちを精一杯表したい。』

野口選手にとって、生涯忘れることのできない国体となっただろう。来年の東京五輪、素晴らしいパフォーマンスを期待している。ガンバ!

なお、本大会では初めてとなる全種別決勝においてライブ放送が行われた。

<ボルダリング競技>					
		少年男子	少年女子	成年男子	成年女子
福井国体	予選	2級~初段	4級~1級	初段~2段	3級~1級
	決勝	1級~2段	3級~2級	初段~3段	2級~3級
茨城国体	予選	2級~2段	4級~1級	2段~3段	3級~1級
	決勝	1級~2段	3級~1級	初段	2級~初段

<リード競技>					
		少年男子	少年女子	成年男子	成年女子
福井国体	予選	13b	12d/13a	13c	13b
	決勝	13c	13b/c	13d	13c
茨城国体	予選	13b	12d/13a	13c/d	13a
	決勝	13a/b	13a	13c	13a

おわりに、このような素晴らしい立派な施設の整備をいただいた鉾田市実行委員会の皆さま、競技ルール改正に際して柔軟にご対応いただいた茨城県山岳連盟の皆さま、名産の美味しいメロンをご提供いただいた地元関係者のみなさまに、感謝申し上げます。ありがとうございました。

【報告：国体委員長 西原斗司男】

## 第132回 Mountain World

### 8000m × 14座を189日で達成

#### 池田常道

ネパールの退役グルカ兵ニルマル・プルジャ・マガール(通称ニムス、36)が春から開始した「プロジェクト・ポッシブル」が10月29日に完結した。4月23日に登った最初の頂、アンナプルナから7か月未満で最後のシシャパンマ(8027m)に立ち、8000m峰14座登頂に成功したのである。プルジャは、春から夏を越えて秋までの7か月に満たない間に、休む間もなく登り続けてゴールに達した。

8000m峰14座登頂の最短記録は、イェジ・ククチカ(ポーランド)とキム・チャンホ(韓国)の足掛け8年だったから、プルジャのそれはもちろん最短記録である。ただし、すべて通常ルートで、強力なシェルパチームにサポートされ、酸素も使用、BCからBCへとヘリを使って移動した末に成し遂げられたこの記録は、同じ土俵に載せて扱うわけにはいかない。

プルジャは4月のアンナプルナ(8091m)で最初の1座を落とし、5月12日にはダウラギリ(8167m)にも成功。同15日にはカンチェンジュンガ(8586m)に立ち、22日にエヴェレスト(8848m)とローツェ(8516m)、24日にマカルー(8485m)と、ネパールの6座をゲットした。

7月にはパキスタンに移り、3日にナンガ・パルバット(8126m)、15日ガツシャブルムI峰(8080m)、18日同II峰(8034m)、24日K2(8611m)、26日ブロード・ピーク(8051m)と、5座登頂を付け加えた。

秋に予定していた3座は、しかし、そう順調には終わらなかった。チベットのシシャパンマ(8027m)はこの秋登山が規制されており、チョー・オユー(8188m)も10月1日が最終期限となっていたからだ。予定を変えて、まず9月23日に後者を片づけてからマナスルBCに取って返し、27日に登頂した。残るシシャパンマには中国当局に許可を申請したが、国慶節を控えたこの時期、カトマンズの中国大使館が休暇に入るなど、最後までビザが出なかった。

しかし、プルジャの「偉業」のためにぜひという声が強まり、ネパール政府筋からの後押しもあって、10月21日にBC入りがなかった。ところが、念願かなったプルジャは親知らずが腫れて発熱するなど、万全の

体調には程遠かったようだ。それでも、冬の近づくなか攻撃に踏み切り、29日午前8時58分、頂上に立つことができた。

成功の一報が入ってから12時間音沙汰がなかったため、下山中に遭難したのでは、などと憶測が飛んだが、翌30日午後、無事カトマンズに帰り着いた。ミンマ・デヴィッド・シェルパ、ギャルジェン・シェルパ、ゲスマン・タマンら最後まで苦楽を共にした仲間と共に盛大なパレードが催されたのは言うまでもない。

\*

これまで8000m峰全山に登頂したのは、1986年のラインホルト・メスナー(イタリア)以来40人前後に達し、すべて無酸素で成功した例も10人以上数えられている。プルジャの場合は、新ルートや冬季登頂といったヒマラヤ登山の新機軸に挑んで成功したわけでもない。昨今のヒマラヤ登山の流れのなかで、驚くべき短期間に目標を達成したとしか言いようがないが、彼の成功が登山界の耳目を集めたことは確かだ。

ところで、プルジャの14座完登には一部で欠けたピースがある。春のダウラギリと秋のマナスルで真の頂上(最高点)に立っていないのではないかという疑問だ。この両峰は頂稜上に複数の頂を持ち、以前から最高点に立ったのか否かが問題になってきた。昨今の公募隊は必ずしも最高点まで行かずとも登頂したと主張する例が少なくない。歴史を紐解いても、この両峰の頂上には疑問の余地がある。プルジャの場合も、自ら設置したのではない固定ロープの終点から引き返した疑いが残っているからだ。公募隊のクライアントやシェルパが最高点に立ってなくても、そのことを指摘しないが、記録として残す上では問題となろう。



カトマンズに凱旋したプルジャ(前列左から3人目)とセブンスアミット・トレックスのシェルパたち



新連載 ～創立60周年に向けて～ (18)

# 『日山協と私』

栃木県山岳・SC連盟 仙石 富英

今年6月のJMCSA総会で役員を退任し、「日山協と私」の原稿を依頼され、改めて関わりを振り返ってみた。(記憶によることも多々あり、内容の不整合にはご容赦願いたい。)平成から令和になり、ほぼ平成の時代を国体、普及関係と日山協の業務にかかわってきた。

ご指導をいただいた多くの諸先輩方々、全国の山仲間感謝する次第である。

国体には昭和55(1980)年第35回栃木国体で競技役員として参加以来、国体強化等には関わりがなかった。平成4(1992)年に栃木岳連から国体常任委員に推薦されたことによるが、これから平成19(2007)年まで国体委員会に係わることになる。その後は、普及担当として、普及・ジュニア委員会(現、登山普及委員会)等にかかわってきた。

## —— 国体委員会時代 ——

私の国体委員会時代は、国体山岳競技がクライミング競技導入に至る変革期であった。思い出してみると、競技規則改正、日体協との調整等様々なことがよみがえってくる。平成8(1996)年第51回広島国体での選手・監督及び関係者のマナー問題から以後の大会での後夜祭の廃止。翌平成9(1997)年第52回大阪国体では登攀競技(R)からクライミング競技(呼称はRのまま)となり、オンサイト・リードの採用。平成10(1998)年第53回神奈川国体ではクライミングルートを4面で行ったが、この頃から、後催県の財政負担の問題が提起されるようになり、国体常任委員会では、日体協の国体スリム化の方針の下で競技内容の検討、日体協調整等が続いた。山岳競技は、観客のいない早



第49回 静岡大会 富士山宝永火口コース



安全登山サテライトセミナー東京会場

朝に山の中で競技が行われること、採点、競技の客観性などの点が指導され、競技の見直しが行われた。踏査競技では、地元有利、踏査地図作製に費用がかかるなどのことで、国体委員長となった平成13(2001)年第56回宮城国体を最後に踏査競技は、廃止となった。代わりに翌第57回高知国体から少年にクライミング競技が導入された。当時のレベルは、ようやく壁にとりつく程度の選手も多く、現在の選手から見ると隔世の感がある。平成17(2005)年第60回岡山国体まで国体委員長を務めたが、平成19(2007)年第62回秋田国体でいよいよ縦走競技が廃止になり、第63回大分国体から現在のリード、ボルダリング競技となった。経緯は、踏査競技廃止に伴う競技得点減少を補うため、検討ではスピード競技も候補にあがったが、ボルダリング競技が導入された。ここまで、委員として国体にかかわれたことは今では思い出である。

## —— 普及担当時代 ——

国体委員会以後は、主として普及・ジュニア委員会(登山普及委員会)担当として携わってきたが、普及担当理事(登山部長)としては、目的を十分達成したとは言い難いと思っている。指導、遭対委員会でもそれぞれ安全登山普及に向けた活動が行われているが、普及委員会として公益法人化後の活動として組織外の一一般の人を取り込んだ活動を拡大することができなかつ



平成30年 ジュニア登山教室 浄土山登山

た。主な活動としては、ジュニア対象の登山教室、全日本登山大会(全日大会)、中・高年安全登山指導者講習会(現、安全登山指導者研修会)である。

日山協創立50周年を契機に当時の田中会長からの方針により始まったジュニア登山教室は、当初、各岳連に行ってもらったジュニア登山教室が全国に普及せず、その普及のために中央開催で立山登山を中心に行ってきた。10年を経過し、最近は参加者も少なくなり、委員会でも活性化の方法を検討してきた。JMSCAでは構成する各岳連には補助として5万円/件の予算を計上して毎年継続しているが、予算を消化しきれない状態である。JMSCAを構成する岳連が弱体化してきていることも一因であると思う。3月の春休みに行っている「なすかし雪遊び隊」も参加者が少なくなっており、今後の課題である。新規としては、以前から言ってきた子供達の「自然ふれあい活動」を何とか展開したかったが、できなかったことが残念である。

今年で58回を迎えた全日大会は、JMSCAの中でも開催について議論の対象になっている事業の一つである。私が最初に参加したのは、昭和52(1977)年3月雪山(雪洞ビバーク)の第17回大山であった。当時は、技術の交流目的もあり「骨の国体、血の全日」ともいわれ、県によっては予選会を経て参加するチームもあった。また、今年開催の岐阜大会では乗鞍岳を登ったが、前回の岐阜大会平成2年6月の第29回大会では、ワサビ平～双六岳(山スキー)で参加した。その頃に比べ、現在は参加者も高齢化し、開催当初の目的は薄れ、親睦的な行事になっている。この事業も公益法人化の改革として組織外の一般参加等を検討してきたが、抜本的なことはできず、昨年の京都大会、今年の岐阜大会で一般参加のコースも設定されたことにより、不本位ではあるが、一部の目的は達成してきた。いずれにしても、ジュニア登山教室、全日大会共に、時代を担う若年者育成、安全登山啓発、組織強化という点では、思い切ったことができず、力不足を痛感している。

中・高年安全登山指導者講習会は、平成元(1989)年の立山での中・高年登山者の大量遭難を契機に国立登山研修所主催で開催されてきた。私がかかわるようになったのは、平成22年以降である。従来、全国を3地区に分けて開催していたが、22年からは日山協も共催として担当し、東西2地区の区分となったが、登山研修所と講習(研修)内容を協議しつつ進めてきた。当初は募集定員に満たず、毎回、再募集の案内を出すの

が当たり前であった。しかし、近年では、再募集も行っているが、最終的には定員を超えるようになり、受講者も内容に満足している状況から、運営はますますとと思っている。平成30年度から講習会の名称も「安全登山指導者研修会」と変わり、JMSCAの事業として初めて西部地区は沖繩岳連主管で行った。沖繩で行うことについては、沖繩岳連からの希望にもよるが、登山研修所としても沖繩開催は初めてのことであり、スポーツ振興センターとの調整も行われ、開催に至った。受講生は若干定員割れであったが、村越真先生の「山歩きのための読図とナビゲーション技術」を主に名護岳周辺で行われた。この事業は、JMSCA事業としても沖繩岳連にとっても良い機会であったと思っている。この他、平成30年度から、登山研修所の新規事業として新たに4つの講習会が追加になった。これは、平成29年3月に私の地元、那須で行われた栃木県高体連の春山講習会での雪崩遭難事故が発端で企画されたものだが、4つの講習会に参加して、特に東京で参加した「安全登山サテライトセミナー」は2日間講習で、無料ということもあるが、定員を大幅を超える一般参加者があり、講師陣、内容的にも参加者の期待に沿ったものと思われた。他の名古屋、大阪会場も盛況であった。減遭難に向けた安全登山啓発は、今までの経験から一朝一夕に行くものではないが、単独の委員会事業でなく、関連委員会合同での事業開催も今後は考慮すべきと思っている。

以上、今までかかわってきたことを書いたが、登山普及委員会の委員として、もう少し力になればと思っている。力不足であったところは、関係する方々に今後を期待する次第である。

## 2020年 新春懇談会

恒例の新春懇談会は、下記にて開催いたします。

日時	2020年1月11日(土) 13時～
会場	アルカディア市ヶ谷 東京都千代田区九段北4-2-25
会費	10,000円

ニュージーランドの人気トレッキングコースを一度に満喫

ミルフォード&ルートバーン・トラック完全踏破  
とマウントクック 13日間

発着地

東京

出発日

3/2(月)

旅行代金

872,000円

※燃油サーチャージは、旅行代金に含まれております。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号 / 日本旅行業協会正会員 / ボンド保証会員

ALPINE TOUR SERVICE 株式会社

山旅専用フリーコール ☎0120-938-290

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

# 令和元年度安全登山指導者研修会(東部地区)報告

令和元年9月14日(土)～16日(月・敬老の日)、北海道東川町と北海道最高峰・旭岳で「安全登山指導者研修会(東部地区)」が開催された。旭岳2290mは大雪山国立公園の表玄関に位置、今なお噴煙を上げ風格を備える。東川町旭岳温泉からロープウェイで姿見の池駅、標高1600mへ。そこから登山道は高山植物帯を通り、火山礫、砂礫の急登になる。標高差が少なく距離も短い、悪天に見舞われ、登山道を見失う遭難事故が多い。いろいろな意味で、旭岳周辺は安全登山指導者研修会に適したエリアといえる。

今年の研修テーマは「遭難事例に基づき、P D C Aサイクルを活用しよう!」<道迷い><低体温症><足首捻挫>、その防止と発生時の処置を、事前検討や登山行動の中で身につける。P=plan計画、D=do行動、C=check評価、A=act改善のサイクル、安全登山は、それらを確実に実行することとされる。

参加者は山岳会会員、高校山岳部顧問、町村行政の野外活動指導者、山岳救助活動に従事する警察官など26名。講師は山岳各方面の多才な専門家の方々。

## <第1日>

開講式(国立登山研修所・藤原所長、日本山岳・S C協会・八木原会長、北海道山岳連盟・小野会長、旭岳ビジターセンター・三島所長の挨拶)の後、講義I「ヘリコプター救助の実際」を尾崎雅義氏(北海道警察航空隊)。道警は空からの捜索・救出に航空隊員53名、ヘリコプター5機の体制をとる。ヘリコプターの長短所、近年のホバーリング技術等、普段聞けない救出事例が紹介される。

講義II「山岳遭難実態と旭岳で発生した事例紹介」松本孝志氏(北海道警察旭川東警察署・山岳救助隊)。地上部隊の山岳救助隊員は北海道全域で97名、山岳遭

難が長野県に次ぐ多発エリアのため、安全登山啓発活動も行う。旭岳の遭難事故は転倒、道迷い、低体温症がワースト3。

大城和恵氏(国際山岳医)の講義III&実技「事例に学ぶファーストエイド」では、低体温症生存率の低さ厳しさを説く。現場処置は、震えの所見で炭水化物を<食べ>→ツェルト等に<隔離>→乾いた衣料で<保温>→首、わきの下、鼠径部をお湯で<加温>→救助要請。登山のファーストエイドはS S S + A B C D Eの基本チェックを反復練習することが大事。会場で各自実習後、3班に分かれて旭岳登山の具体的なプランを練る。関連して渡邊雄二氏(国立登山研修所アドバイザー)から、地図確認(道迷い)、天気予測(低体温症)、地形判断(足首捻挫)のアドバイスが。

## <2日目>

旭岳登山。身体に必要な水分補給(経口補水液O S - 1を500cc)後、ロープウェイに乗る。昨日のグループ討議に基づき、適度に休憩を取りつつ登る。迷いやすい金庫岩も確認。帰路は読図、低体温遭難者(意識無し)のS S S + A B C D Eチェック訓練、<隔離>→<保温>→<加温>しながら救助要請、待機。足首捻挫では処置後、遭難者搬出訓練を行う。

## <3日目>

本日は研修テーマであるC評価とA改善。グループ討議では、ファーストエイド練習不足を指摘されたが、改善点を見出す成果も発表。渡邊氏は「お互いの装備確認、介助者の処置前に自分たちの安全確保、搬送は安全地帯への移動を優先に」を加える。

講義IV「気象の基礎&トムラウシ山遭難の気象解説」は森山知洋氏(気象予報士)。当日の風速15～20m、雨、気温7～8度、体感温度は生命危険ゾーン。





講義V「トムラウシ山過去の事例解説」(大城和恵氏)では、明日から2泊3日旭岳～トムラウシ山縦走プランをグループ討議。森山氏の気象予報は、2日目の夕方から気温が下がり降雪、3日目も不安定な天気。(実際の天気も2日後は降雪、冬山。十勝岳で単独登山者の死亡事故発生。)各班からトムラウシ山縦走遭難防止プラン発表後、指導者＝リーダーの役割、研修会の意味を渡邊氏、大城氏は、今回は成果が多かったと思う、

今後に活かしてほしいと締めくくる。続いて、藤原所長から修了証授与、日本山岳・SC協会・水島登山部長の講評で閉会となった。

遭難現場に即して整理された内容、熱いグループ討議、今年はとくに中味の濃い研修会となりました。講師の方々、関係者、熱心な受講生に感謝申し上げます。

(北海道山岳連盟副会長 秋元篤男)

## 令和元(2019)年度夏山リーダー養成講習会

この資格は夏山登山を自由にプランニングできる登山上級者を養成する目的で、JMSCA公認の「夏山リーダー資格」制度として新設した。

18歳以上の方なら所属に関係なく条件を満たせば誰でも受講ができる事と、全国どこでも同じテキスト・カリキュラムで講習会を行い、指導者の活躍の場を増やす事を目的とした。

今回は那須・甲子青少年自然の家での開催でしたが、西は鹿児島から東は岩手まで講師・講習生合わせて22名で、8月14日～17日までの4日間で行われた。(記本郷利夫)

以下、感想文になります。

### 【講習生・井上忠史】

昨今マンガなどの影響もあり登山ブームがまた来そうですね。自分の所にも山登りに連れて行って下さいとの声も多くなっていますが、山岳会は敷居が高く独りでは恐くて始められないと言う方が多いようです。

この様な初心者に安全に山を楽しんでもらうにはどうすればいいのか考えていた所今回の講習会を紹介して頂き参加しました。

団体に加盟する必要なく一定の経験があれば個人でも受講できるため、ジムスカ以外にも様々な団体、個人で参加されており、講習後の懇親会では色々とお話が聞けて講習と共に貴重な経験をさせて頂きました。

作り込まれたテキストや実際にフィールドで行う実技でも講師の先生方、スタッフの皆様方には大変お世話になり良い経験を積ませて頂き有難うございました。使用したテキストは今後も熟読したいと思います。

今後も登山を始められる方からリーダーを目指される方まで広くこの講習会に参加して頂き、山での事故が減る事を祈っております。

### 【講習生・藤巻佑馬】

今回私が夏山リーダー講習会を受講しようと思った

きっかけは、山を趣味として始めてから10年経つが装備品や安全管理・セルフレスキューなどの知識は独学のみで人から教えてもらった事が無く、これでは「いつか不測の事態に対処しなければならなくなった時に自信を持って行動に移すことが出来ない」と不安に思ったためです。

読図の経験がない私はコンパスも所持しておらず(参加者の中で私だけでした。)受講者の自己紹介を聞いていると殆どの方がどこかの山岳会や山岳連盟に所属しているようで、どこにも所属していない私は「場違いの講習会に来てしまったかな」と最初は不安でいっぱいでしたが、分かりやすくまとめられたテキストを元に講習が進められ、実践的な研修もとても実になるものばかりでした。

今回は第一回目の夏山リーダー講習会という事で山岳会や山岳連盟に所属していない私のような参加者が少数でしたが、是非山を趣味とする多くの一般の方にも「ただの登山客」ではなく「登山者」になれるきっかけを与えてくれるこの講習会を受講して欲しいと強く感じました。



## I SMF 総会報告書

9月27日～28日にトルコ・アンタルヤでI SMF 総会が開催され、会計報告、事業報告、役員改選規約改正・来シーズンの競技等について意見が交わされた。

特に役員改選については、スイス山岳会のトーマス・カー氏が新会長に選任された。同時に副会長、理事も改選され新執行部が誕生した。尚、前会長マリオッタ氏についてはその功績をたたえ、今後は名誉会員となり、オリンピックのプロジェクトリーダーとして活動することが満場一致で可決された。

I SMFの当面の目標は、オリンピックで正式種目となることであるが、ミラノ・コルティナでの2026年のオリンピック競技大会開催決定を受け、そこでの種目化を目指すことが確認された。山岳スキーの強豪国イタリアでの開催であることに加え、新会長がIOCのあるスイスを本拠とし、オリンピック担当がイタリア人・マリオッタ前会長という強力な交渉チームで取り組むので正式種目化が大いに期待される。ただ国際スキー連盟FISとの関係もあり、まだ楽観できない。

冬季ユースオリンピック大会が2020年1月10日から14日までスイス・ローザンヌを拠点で開催されるが、山岳スキーは正式種目としてVillars-sur-Olonで実施される。これは、2026年大会種目化に向けて大きなステップである。ただこの大会に日本から選手を出せなかったのは悔やまれる。

ユースとは、逆だが30歳以上をターゲットとしたワールド・マスターゲームがユースオリンピック直後にオーストリアのインスブルックで開催されるが山岳スキーは1月16日から18日にレースが行われる。

日本選手の参加はまだ申し出がない。

競技について(競技からイベントへ)

Skimountaineeringを世界的に発展させるためには、ビジョンを持ちより戦略的に行動する必要がある。メ



ディア、潜在的なスポンサー、投資家などを引きつけ、よりエキサイティングなスポーツにする。

SKI mountaineeringは、ヨーロッパが主流だが、オリンピックへの実現には、アメリカとアジアにより広める必要がある。またジュニア部門の強化も必要である。競技のレベルをより高くし、地元主催者との協力関係を構築する必要があり、マーケティングとプロモーションについてもより効率的にする必要がある。

そのための財政の安定、追加収入を得る方法を探す。

伝統のある長距離レースLGC(ラグランデコース)とも良いネットワークを構築する必要がある。※昨シーズンは世界選手権とピエラメンタが日程の調整ができず重なるなどした為。

ワールドカップは、2019年12月中旬から2020年4月の初めまで5箇所で開催、オーソワ(フランス)、ラマッサナ(アンドラ)、ベルヒテスガーデン(ドイツ)、ワンロン(中国)。マドンナディカンピリオ(イタリア)最終戦では、総合チャンピオンが決定。欧州選手権もランキングポイントの対象となる。

他に2つの重要なイベント、ローザンヌ2020冬季ユースオリンピック大会とマスターズワールドチャンピオンシップもInnsbruckで開催される。

### 【各国からの意見】

アメリカ：各国フェデレーションがI SMFの映像を使用したり、I SMFが各国の様子を伝える事で、さらに広がるのではないだろうか？

I SMFの映像の著作権などはどうなっているのか？

映像なども共有して使えるようになればいい。世界各地の公認レースなども紹介して行けばどうか？

アンドラ：各分野の専門家をお願いして動いてもらうことは重要だ。

スキーリゾートとの連携はこの競技をやる上でもっとも大事である。

ヨーロッパでさえまだ理解が得られていない部分もある。

オーストリアでは、他の種目のレベルが高く、SKI MOを知ってもらうためにハンドブックなどでこの競技をもっと知ってもらうのも良いのではないかと考えてい



る。審判などの人材を増やすことも大切。

アメリカ：W-CUPやりたいがプロモーションのパワーが必要・市民レースを同時開催するなどしては？

アンドラ：ワールドカップの前に市民レースを開催した。

インディビジュアルでも行ったが、条件が変わってしまう。

300人程になると運営は大変。VerticalならOKだが。

スイス：競技としてのクオリティーを確保しなければならない。見る側にも面白く。山から山への競技は良いが、管理がたいへん。

レーサー視点でいくとその方が理想だが…。

トルコや中国でもやっている、各国でやってほしい。参加人数を増やすためにW-CUP開催地はあらゆる工夫をしてほしい。

中国：オリンピックオフィシャルゲームに向けてヤング世代も増やすことは重要。W-CUP開催時のコストはかなりかかるのでなんとかしていきたい。

地元自治体とスキーリゾートが一緒になり協力している。

ロシア：大学にクラブがあり頑張っている。

最後に次期総会が2020年9月下旬アメリカのコロラド州ブリッケンリッジで開催されることが確認され閉会した。

閉会后、アジアメンバーだけで集まるように促され中国、韓国、イラン、インド、タイそれに日本が集まった。

インドではようやくレースが1-2回開催されたとのこと。タイについては、スイス人でタイ人の妻とスイスとタイの二重国籍を持つ少年選手の父が出席していた。選手はスイスでトレーニングとレース参加していると

のこと。

会長からの「一昨年に北京で集まって以来進展がないが競技の世界普及のためにもアジアは重要なので頑張ってもらいたい」との発言で口火が切られた。固定した事務局を作れないかとのISMF側からの提案に対し、まずイランがスペースの提供を申し出たが、ISFMから、「イランからは前回も支援のオファーがあったが実現しなかったのではないかと指摘がでたところ、中国からCMA内にISMFアジアカウンスル専用のスペースと人材を配置できるとの申し出があり一同が同意した。

次の課題としてレスポンスの確実な連絡網の確立と新執行部の選出が提起された。連絡網については今回の出席者間でメーリングリストを作ることで合意された。執行部については、これまでアジアの会長であった韓国のYoo氏が全く出てこないため新たに会長、副会長、事務局長を選ぶ必要があるとの前提に立ち、いつ・だれを選ぶかについて2月の中国でのアジア選手権大会の時にアジアカウンスル会合を開き、そこで互選により決めることが確認された。アジアでは中国ではワールドカップ戦が複数年にわたり開催されており。韓国の大会もISMF公認を得ているが、日本の大会は登録していないし、また来年のユースオリンピックにも日本だけ選手を出していないので、ISMFの中では日本はあまり存在感がないのが現実である。日本は東アジアで唯一本格的な山岳スキーレースが実施でき選手も育てている国であるのに少し残念である。この現状認識を踏まえ、来年2月までに日本としてアジアの山岳スキー組織とどうかわるか方針を確立する必要がある。

(山岳スキー委員会副委員長 松澤幸靖)

**スポーツLJ**  
BIG

# 『そうよ そうなの 遭難よ!』

— 音声入りアニメ動画 —



本協会では、減遭難キャンペーン「ストップ・ザ1000」を登山者に向けて展開しております。

これは山岳遭難者総数3,129人(2018年調査)を1996(平成8)年代の遭難者総数1,000人台に戻す“減遭難”運動です。遭難とは言い難い道迷い遭難者が1,187人もいるのです。これを無くすだけでも3,129人から2,000人台まで減少させることができます。

この啓発活動の一環として音声入りアニメ動画『そうよ そうなの 遭難よ!』を作成しました。多くの一般登山者に拡散していただき、登山者みんなで山の遭難事故を減らしていきましょう。ご協力ください。

下記URLをご覧ください。

<https://www.jma-sangaku.or.jp/sangaku/?ca=3#video>

<歌詞>

セリフ 遭難、自分とは縁がない。そう思っていないか。そんなあなたに伝えたい。聞いてください。そうよ、そうなの、遭難よ。

♫ ふと思ひ立ち、誰にも告げず

孤独を求め 頂き目指す

地図を持たずに 我が道を

進んだその先 遭難さ

♫ 今朝のあなたに 言ってあげたい

登山届を 出してねと  
 サビ そうよ そうなの 遭難よ  
 見つかる確率 上がるから  
 ♡ 困難に立ち向かってく  
 果敢なあなたが 好きだった  
 でも行かないで 勘で動かないで  
 私たちたぶん 遭難よ  
 ♡ まずは大きく 深呼吸  
 分かる ところまで 戻りましょ  
 サビ そうよ そうなの 遭難よ  
 無茶せず救助を 待っていて  
 セリフ 日本の遭難事故って、とっても多いの。  
 1日1人が登山で亡くなる計算よ。  
 ♡ 事故原因は道迷いがダントツ1位!  
 おしゃべりに夢中になって道を失うことも

疲労がピークになりやすい魔の14時にはご注意を  
 どうか どうか 下山まで気を抜かないで  
 ♡ オレの辞書に「あきらめ」はない  
 粘りとガッツで 歩んできた  
 ♡ でも足上がらない 踏み出せない  
 山頂ちかくで  
 ♡♡ まさか 遭難  
 ♡ 過去の体力過去のもの  
 引き際 冷静 見極めて  
 サビ そうよ そうなの 遭難よ  
 がんばる人ほど なりやすい  
 そうよ そうなの 遭難よ  
 あなたもなりうる それが遭難よ



令和元年度  
 第6回理事会報告

日時：令和元年10月10日(木)  
 14:00～17:10  
 場所：Japan Sport Olympic Square  
 3階10号会議室

出席者：八木原会長、平山、丸各副会長、  
 尾形専務理事、小野寺、水島、合田各常  
 務理事、相良、蛭田、町田、村岡、村上、  
 水村、山口、前田、六角、唐木、安藤、古  
 賀、山本、古林各理事、中島、古屋各監  
 事

欠席者：亀山副会長、小日向理事  
 ※議事の前に博報堂D Yメディアパート  
 ナーズからスポーツクライミングの市  
 場調査報告(第3弾)

1. 開 会

会長挨拶の後、会議成立状況が報告さ  
 れ、理事数23名中21名出席、監事2名  
 出席で会議は成立(定款第33条、定足数  
 = 12名(1/2以上))  
 続いて議長を選出(定款第32条)し、議  
 事録署名人を指名(定款第34条)して議  
 事に入った。

2. 議 題

- ①議案第1号 議事録の承認について  
 第5回理事会議事録の承認について(事  
 前送付済)  
 全員異議なく承認された。
- ②議案第2号 2020年度アジア選手権に  
 ついて  
 提案された文書を岩手県・盛岡市・(一  
 社)岩手県山岳・スポーツクライミング  
 協会に提出することで承認された。
- ③議案第3号 W C Hに関わる銀行融資に  
 ついて  
 提案された融資条件で融資を受けること

を承認。  
 一連の I F との交渉経過、支出の管理、  
 権限周りなど過程の検証を行う検証委  
 員会を立ち上げることになった。村岡理  
 事、山口理事、山本理事を検証メンバー  
 として、12月の理事会までに経過を纏め  
 る事になった。

- ④議案第4号 規程について  
 会計処理準則について  
 提案された素案を基にさらに理解し易い  
 マニュアル的なものを作ることにし、古  
 屋監事、相良理事の担当が承認された。
- ⑤議案第5号 2019年度上期総括案につ  
 いて  
 総括については、後日メール等で訂正等  
 を頂くことになった。個別事業について  
 は各委員会で確認し、後日修正を頂くこ  
 とになった。継続審議として承認。
- ⑥議案第6号 2020年度事業方針及び予算  
 編成方針案について  
 これも前議案第6号と同じく継続審議と  
 して承認。
- ⑦議案第7号 2020年度予算編成のため  
 の委員長会議開催について  
 11月14日(木)17時からで承認された。
- ⑧議案第8号 日本スポーツ賞の推薦につ  
 いて  
 S C部に付託することで承認。
- ⑨議案第9号 2020年度L W C印西開催に  
 ついて  
 常務理事会の提案通り、開催しないこと  
 で承認された。
- ⑩議案第10号 山岳共済会の今後について  
 今後どのようにしていくかについて水島  
 常務理事兼共済委員会委員長、古賀理事  
 担当で検証することで承認。
- ⑪議案第11号 後援申請について  
 映画「イーディ、83歳、初めての山登り」  
 (配給：アットエンタテイメント)につ  
 いて機関誌への広告出稿を条件に承認。

3. 報 告

- ①報告第1号 9月度月次会計報告について  
 資料に基づいて報告があった。

- ②報告第2号 無雪期レスキュー報告につ  
 いて  
 資料に基づいて報告があった。
- ③報告第3号 積雪期レスキュー要項につ  
 いて  
 資料に基づいて報告があった。11/1に  
 H P掲載とのこと。
- ④報告第4号 自然保護総会について  
 資料に基づいて報告があった。
- ⑤報告第5号 J O Cジュニアオリンピッ  
 クカップ報告について  
 今年度で南砺市開催は終了となる。今後  
 については、ユースC大会として検討し  
 たいとのこと。
- ⑥報告第6号 11月 I F S C イベントオー  
 ガナイザー会議について  
 2020年度は国際大会を開催しないが、出  
 席の方向で進めることにした。
- ⑦報告第7号 S C派遣選手について  
 資料に基づき報告があった。
- ⑧報告第8号 国体報告について  
 第74回次城国体についての報告があっ  
 た。

4. 専門委員会議事録報告(抄録)

4-1 S C委員長・副委員長会議

- 9月12日(木)
- 1) 報告事項
  - ①指導委員会を「登山部」と「スポーツクラ  
 イミング部」に分ける可能性について
  - ②ジャパンツアーボルダリングの医療体制  
 について  
 ・医科学委員会での派遣は検討するが、全  
 ラウンドに手配できるかは現状分から  
 ない。(9/13の医科学委員会で検討)・  
 A E Dの設置状況を確認(無い場合はレ  
 ンタル)
  - ③アスリートパスウェイの報告(タレント  
 発掘)について  
 岩手県・鳥取県・愛媛県が希望(スピー  
 ドの強化)
  - 2) 検討事項
  - ①国体出場の選手登録(ドーピング検査が  
 あるため)について

- ②セッターの選手へのコーチングについて
- 3)その他
- ①競技スタッフの技術について  
ビレイヤーの技術能力
- ②競技会の演出(音楽・照明・解説等)について
- ③International Rock Climbing Research Associationの第5回学会開催について  
(2020年9月7日～11日 場所: 明治大学和泉キャンパス)→I F・N Fの後援を希望
- ④低年齢選手(特にユースD)の大会参加について
- ④学生協会のJ M S C A加盟について
- ⑤ジャパンツアーのスピードの大会追加について

#### 4-2 遭難対策委員会

- ア)レスキュー講習会(9/6～8)報告
- ①参加者数  
講師、スタッフ、オブザーバー計25名
- ②受講者数  
縦走ハイキング15名、クラスA 5名、クラスB 10名、クラスC 8名 計38名
- ③各クラスの反省点、注意点および改善点
  - a. 縦走ハイキング(クラスA).  
反省点1: 事前のすり合わせ不十分であり、他クラスとの技術整合が取れていない。
  - (クラスB)  
反省点2: 当日朝の打ち合わせで変更した内容を受講生に教えた。  
事前研修会で議論したことが生かされていない。
- 対策1: 事故防止の観点から当日の内容変更は行わない。
- 対策2: 研修会で技術確認および講師と認識の統一を図る。必要な議論を行う。
- (クラスC)  
報告1: 研修会通りの内容を行った。  
報告2: 受講生は講習の成果が3日目は手

- 際よく行っていた。
  - 注意点1: バックアップ用固定ロープにスクリューカービナを使用した。使用の段階でスクリュアの緩みが発生した。毎朝の確認で緩みが確認された。
  - ④全クラスに共通する対策
    - a. 次回からバックアップのカラビナはワンタッチを使用する。
    - b. ロープのセット等は講師の指示によりスタッフが行うこと。
    - c. 主任講師、講師、スタッフの在り方に付いて各クラスとも今一度確認する。
    - d. 今回の各クラス注意点、対策等を遭難対策委員会で共有する。
    - e. テキストの内容、変更箇所、注意点等を明文化する。
  - ⑤その他
    - a. 今回、医科学委員会より中島委員長にご視察頂いた。
    - b. 縦走ハイキングクラスについては今後夏山リーダーとの整合を図る。
- #### 4-3 山岳共済会運営委員会
- 9月19日(木) 出席者5名、同席者1名、委任1名
  - ア)令和元年度加入状況について
    - ①9月15日現在加入者51,880名(前年比1,636名減、継続1,000名減、新規636名減)
    - ②加入促進対策について
      - a. 各岳連(協会)に共済委員を選任して貰う
      - b. 山岳保険プレゼン用パワポを改訂して各岳連(協会)に配布
      - c. タウンニュースへの広告出稿
      - d. 拡張用ポロシャツ、ティッシュの検討
      - e. 「もう迷いません。山岳保険は、日山協」のキャッチコピー
  - イ)令和2年度「山岳保険のご案内」内容について  
遭難捜索費用補償特約の新認可取得対応の経過報告があった。

遭難捜索保険商品の根幹に関わることで、速やかに認可取得をお願いした。  
ウ)減遭難啓発事業一音声入りアニメ動画制作(サン・アド)について  
9月12日の登山部連絡会で動画を観てもらい、指摘事項について修正を依頼。動画の拡散について協議。

#### 4-4 第3回S C医科学委員会

- 9月13日(金) 出席者4名
  - ア)競技会医務担当割り当て
  - ①ジャパンツアー
  - ②全国高校選抜クライミング
  - ③J O Cジュニアオリンピックカップ
  - ④ワールドカップ2019印西イ)各業務担当委員報告
    - ①救護担当(中島委員)
      - a. 世界選手権
      - b. ジャパンツアーでのA E Dについて
      - c. 出血について
    - ②学術担当(代、六角委員長)
    - ③強化連携(六角委員長)
  - ウ)その他
    - ①S C指導委員会  
A T資格の推薦についても指導委員会に委託する予定。  
スポーツドクターに関しては継続して、医科学委員で選定する予定。
    - ②International Rock Climbing Research Associationの第5回学会開催について(2020年9月7日～11日場所: 明治大学和泉キャンパス)
- #### 5. 会務・役員派遣等(9月13日～10月8日)
- (1)第22回J O Cジュニアオリンピックカップ 9月14日(土)～16日(月)  
於: 南砺市桜ヶ池C C  
平山副会長、村岡理事
  - (2)安全登山指導者研修会(東部地区) 9月14日(土)～16日(月)  
於: 北海道、岐登山・旭岳周辺  
八木原会長、水島常務理事
  - (3)全国山の日協議会理事会 9月19日(木) 於: 四谷保健センター  
尾形専務理事
  - (4)F I S E協議 9月19日(木)  
於: 駐日フランス大使館 小日向・水村理事、安井委員長
  - (5)ネパールナショナルデー 9月20日(金)

寄贈図書		
寄贈本	(株)山と渓谷社	「山と渓谷」2019年11月 No.1015
	宝島社	「東京五輪が待ちきれない!!」
	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.869
	ソルメディア	「クライマーズ」# 013
	(公財)日本スポーツ協会	JSP「スポーツニュース」「フェアプレイニュース」Vol.110
	国土緑化推進機構	「くりーん・もあ」第87号
	A-SPORTS 事業部	「ACTIS」5月号
	(公財)日本オリンピック委員会	「JOCの活動」
	大阪府立体育館	「季刊 府立体育館」No.130号
	(公財)日本スポーツ協会	「JSPO スポーツニュース、フェアプレイニュース」Vol.111
広報誌	日本ヒマラヤ協会	「HIMALAYA」No.490
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.718
	La rivista del Club alpino italiano	「Montagne 360」ottobre 2019
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第628号
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」9月 第466号
	健康・体力づくり事業財団	「健康づくり10月 No.498
	(公社)東京都山岳連盟	「TMF 都岳連通信」2019年3号、新春の集い案内
	日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」2019年10月 No.361
	(株)日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第268号、第269号
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」2018年11月 No.537
会報	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第435号、「やまびこ」第185号
	HAT-J	「HAT-J NEWS」No.115
	日本防火・防災協会	「地域防災」No.28
	東京野歩路会	「山嶺」No.1076
	愛知県山岳連盟	愛知岳連ニュース 第435号
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第467号
	(公社)日本山岳会	「山」10月 No.893号
	北丹沢山岳センター	「北丹沢山岳センター藤野山岳協会合併ニュース」秋号、「神川ヒュッテ通信」第105号
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.719

想像をはるかに超える"保温力"  
**超肌着力**

於：ホテルオークラ東京プレステージ  
タワー 八木原会長、神崎顧問

(6)湯浅道男さんを偲ぶ会

9月25日(木) 於：アルカディア市ヶ谷  
八木原会長他

(7)第58回全日本登山大会・岐阜大会

9月28日(土)～30日(月) 於：岐阜県高山  
市、下呂市 八木原会長、丸副会長、尾  
形専務理事、水島常務理事

(8)ISMF総会 9月28日(土)～29日(日)

於：トルコ アンタルヤ 笹生委員長

(9)第74回茨城国体スポーツクライミング  
競技大会 10月4日(金)～6日(日)

於：茨城県 八木原会長、平山副会長、  
水村理事、西原国体委員長

(10)JOC強化本部会議 10月8日(火)

於：Japan Sport Olympic Square 14階  
小野寺常務理事(合田代理)

## 表紙のことば

正面に大きく聳えるのは、本誌604号で紹介した。テント・ピーク(7,365m)。今回紹介したいのは、その左奥に見えるネパール・ピークである。

1983年8月、ネパール政府はヒマラヤの高度修正と山名改定を行い、登山界に波紋を投げかけた。

その時、7,000m峰から6,000峰に格下げされたのがこのネパール・ピークである。それまでスイス山岳研究財団(SSAF)の地図などでは、7,168mとされてきた高度が6,910mとされたのだ。テント・ピークの高度が不動なのにネパール・ピークだけが150m以上も低くなったことに登山界からは疑問を投げかけられた。

(写真撮影者 尾形好雄)

## 編集後記

11月3日(日)恒例の第34回県民登山を実施した。参加者51名と少なかったが「お花と自然の観察コース」、引率登山の「三ノ塔チャレンジコース」そして昨年から新設した「登山知識とスキルの学習コース」があり、スキルコースは17名で増えてきた。下山後の参加者にヒアリング。歩き方・地図読みなど基礎的技術が学習でき有意義であったようだ。

一昔前は市民対象に引率だけでなく、学習を取り入れた教室が沢山あったと思う。登山者の高齢化と多様化で衰退、今また未組織登山者の増加でニーズがあるのではと思う。いずれにしろ減遭難を進めるには、時代に即した指導者の養成が喫緊の課題で「夏山リーダー資格」制度の早期全国展開に期待する。

(広報担当 水島彰治)

**一般財団法人 日本トレイルランニング協会**

〒141-0031  
品川区西五反田6-3-23-205  
☎03-3492-0355 FAX 03-6451-3767

**NPO法人 北丹沢山岳センター**  
神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- ・北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- ・陣馬山トレイルレース実行委員会
- ・道志村トレイルレース実行委員会
- ・八重山トレイルレース実行委員会
- ・東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
- ・上野原秋山トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

**登山月報 第608号**

定価 110円(送料別)  
予約年間 1,300円(送料共)  
昭和45年12月12日  
第三種郵便物認可  
(毎月1回15日発行)

発行日 令和元年11月15日  
発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号  
Japan Sport Olympic Square 807  
公益社団法人  
日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-5843-1631  
FAX 03-5843-1635

# 山岳 雑誌

# 岳人

がくじん

山と人、時代をつなぐ「岳人」

**12月号 発売中**

**【特集】続・戦国の山**

★モンベルのウェブサイト  
全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格880円(+税)

**年間購読がおすすりめです。**

購読割引 送料無料 限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊 年間購読なら12冊

~~10,560円~~ (+税) → **9,680円** (+税)

1年間で880円  
1冊分無料!

2色から  
選べる! /

**岳人年間購読キャンペーン**

**岳人Tシャツプレゼント**

岳人の年間購読を【新規お申込み】または【ご継続】いただくと、モンベル製「岳人Tシャツ」をプレゼント。

キャンペーン期間(お申し込み日)

**2019年10/15日～2020年10/14日**

(2019年12月号から2020年11月号までの年間購読開始が対象となります)

※購読開始号に同封されているクーポンを全国のモンベルストア店頭でTシャツと交換させていただきます。ご来店いただけないお客さまには送料550円で発送も可能です。

**年間購読のお申し込みはこちらから! >>>**

<https://www.gakujin.jp/>

全国の  
モンベルストア  
でも受付中!

お問い合わせ

モンベルポスト

☎0120-982-682 / TEL 06-6538-5797

※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

あなたを守る。  
あしたを作る。  
三井住友海上

損害保険と聞いて、  
なにを思い浮かべますか？

ケガ、災害、事故…日々の中で起こりうるリスクをカバーする。それは私たち三井住友海上の重要な任務ですが、すべてではありません。たとえば同じ自動車保険でも、暮らしの変化や自動車の進化を見つめて改善を続けること、宇宙開発や再生医療など、まだ世界にない保険を新しく作ることで社会の前進をサポートすることも、とても大切な役割です。変わらない一日に寄り添い、より豊かな明日を実現したい。だから私たちは、守ることと作ること、その両方を繰り返しながら前へ歩み続けます。

みつ い すみ とも かい じょう  
三井住友海上  
時空保険  
探査部  
Space-time Insurance  
Exploration Department

人類にとっての  
損害保険の  
必要性を調査。

時空を超える  
ゲート。

社員証を  
かざせば  
タイムワープ。

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上



# 登山者のマナー 山岳保険

あなたのは山岳保険ですか？

- 傷害死亡・後遺障害
- 遭難搜索費用
- 救援者費用
- 傷害入院費用
- 傷害通院費用
- 傷害手術費用
- 個人賠償責任

日山協 山岳共済会 〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。  
<https://sangakukyousai.com>



WEBからもお申込みいただけます